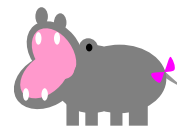


# 麻しん風しん混合（MR）予防接種説明書



**麻しん(はしか)**は、麻しんウイルスの空気感染<sup>※1</sup>によって起こり感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。主な症状は、発熱、せき、鼻水、目脂、発疹です。最初3～4日間は38℃前後の熱で一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹が出てきます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

麻しんにかかった人100人のうち7～9人が中耳炎、1～6人が肺炎を合併しています。脳炎は1,000人のうち1人の割合で発生が見られます。また、麻しんにかかると数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と言う重い脳炎を発症することがあります。これは麻しんにかかった人のうち約10万人に1人の割合で見られます。麻しんにかかった人のうち、1,000人に1人程度の割合で死亡することがあります。

**風しん**は、風しんウイルスの飛まつ感染<sup>※2</sup>によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽い風邪症状で始まり、発疹や発熱、首のリンパ節の腫れ、目の充血などが主症状です。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。大人になってから風しんにかかると重症になる場合があります。また、妊婦が妊娠初期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気によって心臓病や白内障、聴力障がいをもった児が生まれる可能性が高くなります。

麻しん風しん混合ワクチンは、麻しんと風しんウイルスをそれぞれ弱毒化して作ったワクチンです。予防接種を受けた人のうち、約95%以上が免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、麻しんや風しんにかかることを防ぐことができます。

<sup>※1</sup>空気感染・・・ウイルスや細菌が空気中に飛び出し、1m以上の長距離を移動し、そのウイルス等を吸い込むことにより感染させること。

<sup>※2</sup>飛まつ感染・・・ウイルスや細菌が咳やくしゃみなどで細かい唾液や気道分泌物につつまれて空気中へ飛び出し、約1mの範囲で人に感染させること。

## 1. 接種方法について

接種方法は皮下接種です。

| 対象年齢・接種間隔 |                                                                | 接種回数 |
|-----------|----------------------------------------------------------------|------|
| 1期        | 生後12か月（1歳）以上生後24か月（2歳）未満の間に1回接種を受ける。                           | 1回   |
| 2期        | 5歳以上7歳未満で <u>小学校に入学する前年度（年長児相当）の4月1日から3月31日までの間に</u> 1回接種を受ける。 | 1回   |

輸血またはガンマグロブリン製剤（血液製剤の一種）の注射を受けた人は、3か月以上過ぎてから麻しん風しん混合予防接種を受けるようにしてください。ガンマグロブリンには様々な感染症に対する抗体が含まれているため、麻しん風しん混合ワクチンが中和されてしまい、十分な免疫ができません。また、川崎病などの治療でガンマグロブリン大量療法を受けた人は、6か月以上過ぎてから予防接種を受けてください。

## 2. 接種後の経過と副反応

接種後の過ごし方について詳しくは裏面をご覧ください。麻しん風しん混合ワクチン（MR）は生ワクチンのため、接種後ウイルスが体内で増え、接種日から数日中に発熱や発疹、発赤、硬結（しこり）、リンパ節の腫れなどが認められます。通常これらの症状は一過性で数日のうちに消失します。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血など）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん（熱性けいれんを含む）などが報告されています。

## 3. 予防接種健康被害救済制度について

万が一、麻しん風しん混合予防接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済に関する請求について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

### ◎予防接種に関するお問い合わせは・・・



裏面はお読みになりましたか？  
不明な点は接種前に医師に  
ご確認、ご相談ください。



# 予防接種を受ける前にお読みください



予防接種は、感染症にかかることを防いだり、かかった時の症状を軽減したり、病気がまん延することを防ぐために行なわれます。

赤ちゃんがおなかの中にいる間におかあさんからもらった免疫力（病気から体を守る力）は、生後数か月から1年くらいで自然に失われていきます。そのため、その後は子ども自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

予防接種を受ける前には、予防接種の特徴や有効性、副反応などをきちんと理解することが大切です。予診票を記入する前に、この説明書をお読みの上、不明な点などは接種前に医師に相談しましょう。

## ☆ 予防接種のきほん ☆

### 1. 予防接種を受けることができないのはどんなとき？

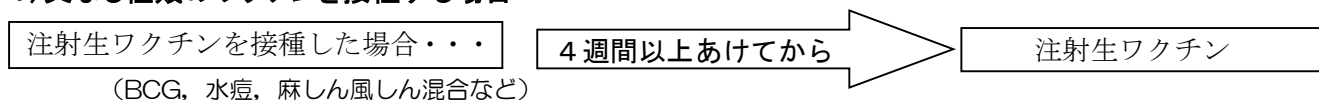
予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。下記のいずれかにあてはまる場合は接種できません。

- 1) 明らかに熱がある（一般的には37.5℃以上）
- 2) ひどい下痢をしている
- 3) 重い急性の病気にかかっている
- 4) その日に受けるワクチン、またはワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある（アナフィラキシーショックとは接種後30分以内に蕁麻疹などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、そして息苦しさなどの呼吸器症状を呈します。）
- 5) ロタウイルス接種の場合、腸重積症にかかったことがある。
- 6) ロタウイルス接種の場合、腸重積症の発症を高める可能性のある先天性の消化管障害があり、治療していない。
- 7) ロタウイルス接種の場合、重症複合型免疫不全（SCID）を有する
- 8) BCG接種の場合、予防接種や外傷などによるケロイドが認められる
- 9) BCG接種の場合、結核にかかったことがある
- 10) 水痘予防接種の場合、水痘にかかったことがある。
- 11) 麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、などの感染症にかかり治ってから4週間以上経っていない場合や突発性発疹、手足口病などにかかり治ってから2週間以上経っていない場合
- 12) 子宮頸がん予防接種対象者の女性で、妊娠している又はその可能性がある場合
- 13) その他、医師の判断で不適当と判断された場合

### 2. 予防接種の間隔について

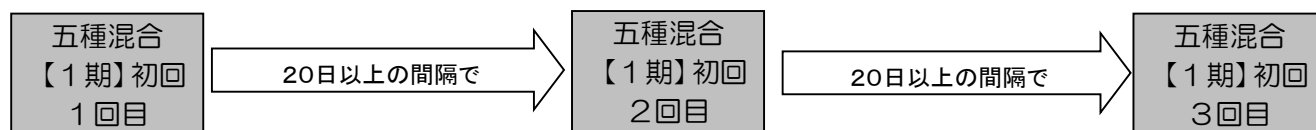
予防接種を受けてから次の予防接種を受けるまでに一定の期間が必要になります。接種したワクチンの種類によってその間隔が異なりますのでご注意ください。

#### 1) 異なる種類のワクチンを接種する場合



#### 2) 同じワクチンを複数回接種する場合

＜例＞五種混合ワクチン

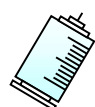


※ B型肝炎、小児用肺炎球菌、五種混合、水痘、日本脳炎などは同じ種類のワクチンを複数回接種します。確実な免疫をつけるために、決められた接種間隔で受けましょう。

### 3. 予防接種後の過ごし方

接種後に副反応がでることがありますので、下記の点に気をつけましょう。

- 1) 接種後30分くらいは接種した医療機関で子どもの様子を観察するか、かかりつけの医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- 2) 接種した日は、普段どおりの生活でかまいません。ただし、はげしい運動は避けましょう。
- 3) 接種した日の入浴はかまいませんが、接種部位を強くこするのは避けましょう。
- 4) 生ワクチン（BCG、水痘、麻しん風しん混合など）は接種後4週間、不活化ワクチン（B型肝炎、小児用肺炎球菌、五種混合、二種混合、日本脳炎など）は接種後1週間、副反応の出現に注意しましょう。
- 5) 予防接種後に接種部位のひどい腫れ、高熱や麻痺などの重篤な症状が現れた場合、医師の診察を受けた後に保健所保健予防課（Tel 626-1114）までご連絡ください。



本日受ける予防接種の特徴や副反応などは、表面に記載されています。  
接種を受ける前に必ずお読みください。

